



学園だより

This Student Information Booklet contains a variety of useful information for Nagoya University students, including on-campus news as well as extracurricular activities.

vol.164

2015.3

CONTENTS

コラム / 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集 / 特集① 平成26年度名古屋大学体育会会長表彰式
 特集② 第55回体育会リーダーズ・アセンブリー / クラブ活動 / トピックス / 企画・学務部の窓 / 災害対策 / 伝言板

COLUMN

卒業を迎える君に送る言葉：「不屈」、「貢献」そして「挑戦」

名古屋大学総長 濱口道成

卒業おめでとうございます。卒業される皆さんは、新しい生活への期待を胸に、残り少ない大学生活を楽しんでおられることでしょうか。私も皆さんと一緒に総長を「卒業」します。総長としての6年間の中で、今年はとりわけ記憶に残る年でありました。それは、赤崎勇先生、天野浩先生が青色LEDの発明で、ノーベル物理学賞を取られたからです。お二人の受賞で、名大関係者のノーベル賞受賞者は6人となり、アジアの大学で最も受賞者の多い大学となりました。

先生方の発明された青色発光LEDは、20世紀中には実現不可能とされた技術です。もしこの発明がなければ、スマートフォンは生まれなかったでしょう。テレビもブラウン管のままだったでしょう。この発明はまた、エネルギー消費全体に大きな影響を与えました。青色LEDにより白色LEDが開発され、白色LEDの普及により2020年には、日本の電気総需要の7%を削減でき、その効果は原子力発電所10数基に相当するとされます。また、LEDは、低い電圧でも十分な光をもたらすことから、アフリカや中央アジアなどの15億人の人々に光をもたらした発明とされています。まさに青色LEDは、21世紀の人間社会の在り方を根底から変える技術の一つとなったと言えます。

12月には、私もノーベル賞受賞式典に参列させて頂きました。授賞式典の中でも、受賞記念講演会はとりわけ深く心に残るものでありました。赤崎先生は、窒化ガリウムによる青色発行ダイオード開発の半世紀余にわたる歴史に触れられ、その困難と意義を明快に述べられました。先生は、戦前に特攻隊の基地のあった知覧で生まれておられます。長い年月と苦難を越え、この画期的技術を実現された先生のお話には、私は深い感銘を覚えました。また、天野先生は、若い世代へのメッセージを述べられ、困難に挑戦することの意義を感動とともに語られました。受賞者が、それぞれの研究を振り返り挙げられた言葉として、赤崎先生は「不屈」を、天野先生は社会への「貢献」を、そして中村先生は「挑戦」を挙げておられました。不屈、貢献、そして挑戦。卒業される皆さんが、これらの言葉を胸に刻み、社会で活躍されることを記念します。

卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『大学生生活を振り返って』

教育学部4年 服部 優純

私は4年前、「子どもとかかわる仕事に就きたい。そのために教育について学びたい」と思い、名古屋大学教育学部に入学しました。しかしその時点で、自分が何をしたいのか、何を大学で学びたいのか具体的なイメージがあったわけではなく、ただ漠然と思っただけでした。大学生活の4年間で、私の考え方や今後に大きな影響を与えたのは、1年生のころから参加しているサークル活動と、3年生から参加したゼミ活動での経験です。

サークル活動では、障がい者の方と一緒に活動していました。その中で私たちと楽しそうに話してくれる様子や活動に一生懸命取り組む姿を見ることで、自分たちが準備してきた間のつらさを忘れられ、またやりたい、続けたいと思えるようになり、4年間楽しんで続けることができました。しかし、ただ楽しいだけではなく、保護者の方とお話する中で、障がい者の方々に対する厳しい状況、周囲からの目、理解のなさ等さまざまなことを目の当たりにし、自分の社会に対する認識の甘さを痛感しました。だからこそ、ここでの活動や経験が、卒業論文執筆の際の問題意識等にもつながっていたと思います。

ゼミ活動では、北海道宗谷地区で教育に関わっていらっしゃる先生方や教育行政の方、地域の方にインタビューさせていただきました。その中で、先生方や地域の方々への教育や子育てに対する熱い思いに触れることができ、教育とは何か、地域に根ざすとはどういうことか考えるきっかけとなったと思います。このゼミを通して、教育といえば、「教師」「学校」という今までのイメージから、教育や子どもたちに関わるのは学校だけではない、地域住民という立場から、教師とは違った視点から教育に関わることもできるということに気づくことができました。

この2つの経験をはじめとする大学4年間で、私の社会や教育に対するイメージは大きく変わったと思います。また、このような経験は、先生方をはじめ、サークルやゼミの先輩、後輩、友人などさまざまな方のかかわりの中でできたものだと思います。大学生活でかかわったすべての方に対する感謝を忘れることなく、この経験を通して学んだことを生かし、教育について考え、関わり続けていきたいと思っています。



(筆者・左端)



『私の視野を広げた経験』

経済学部4年 竹林 佳澄

私の大学生活4年間で最も刺激的であり多くの学びを得た経験は、3年次の夏に行った「タイ・シンガポール研修旅行」です。経済学部のグローバル人材育成プログラムの一環としてこの研修に参加する機会をいただきました。研修では現地大学での英語でのプレゼンテーション、現地学生とのディスカッションや日系企業の現地支社を訪問して工場・オフィス見学、現地スタッフの方との交流等を体験しました。

グローバル社会の中で活躍する力の必要性はこれまで様々な場面で耳にしてきましたが、恥ずかしながら私はこの研修に参加するまで海外へ出ることに大きな壁を感じていました。英語力に自信がなかったこと、そして日本の外に目を向けることの面白さに全く気付いていなかったからです。しかしこの研修がそのような私の意識を変えるきっかけになりました。「英語力そのものよりも伝えようとする姿勢が重要であること」、「海外を知ることは同時に日本を、そして日本人としての自分を見つめ直すことでもあるということ」を研修から感じ取ったからです。前者については、タイで訪問した企業で日本人駐在員の方と現地スタッフの方々と言語を同じくしない中でも笑顔でコミュニケーションを取っている様子を見たり、現地学生との交流において私の拙い英語でも理解しようとしてくれる姿勢を感じたりしたことから、英語力はもちろん大切であるが、それよりも伝えようとする姿勢、ひいては相手に伝える中身のある人間であるかがより重要であると感じました。また後者については、タイ・シンガポールの人々、街並み、文化全てが新鮮に感じられる中で、自分の知らない世界を見ることは、今まで見ていた世界を客観的に見直すことにつながり、日本、日本人らしさというものを改めて考えさせてくれるものであると気が付きました。

卒業後は企業で働きますが、この研修で得た学びは海外で働くことに限らず、国内で働く上でも大きな価値のあることであると感じています。社会に出れば、日本人同士であっても自分と異なる背景、考えを持つ様々な人と関わりながら働き、また自分の未知の分野に挑戦しなければいけないことも多々あるかと思っています。そのような中でこの研修での経験は私にとって大きな財産となると思います。この貴重な経験を私に与えてくれたプログラム関係者の方々、研修をともにした仲間感謝しております。



(筆者・前列 右から4番目)

卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『医師への道』

医学部6年 布施 佑太郎

名古屋大学医学部の6年間を振り返って思うことを3つの視点から書き記したいと思います。1つ目は学業、2つ目は課外活動、3つ目は海外経験です。

医学は日進月歩であり、それは研究と臨床の両輪により成り立っているものと考えます。名大医学部では最初の3年間は基礎医学の勉強に割り当てられています。3年生後期には、半年間基礎研究室に配属され基礎研究の経験をして、後半の3年間は臨床医学を学びました。さらに五年次の1年間には実際に名大病院で臨床実習するというカリキュラムでした。この6年間をそのどちらにも触れることができたのは研究施設を併設する名大病院で学習して良かったと思う理由の一つです。

2つ目は課外活動です。部活は6年間硬式テニス部に所属。四年次には医学部留学生国際交流サークルの設立に先輩とともに関わりました。また、大学進学塾の数学科講師のアルバイトでは多数の方々との出会いがあり、その出会いから人間関係の重要性を学びました。卒後研修病院を考える上でも部活やサークルの先輩方の存在は心強いものになりました。また、国際交流サークルでの留学生たちとの時間の共有は有意義でした。私が渡米の際、今度はその留学生がアメリカで出迎えてくれてありがたかったことも思い出されます。

最後は海外経験です。はじめての留学は二年次のことで瀧口総長派遣によるモナシュ大学語学留学でした。ここでは世界の広さを肌で感じ取りぜひ将来医学留学もしたいと確信しました。その後4年生のときハワイ大学医学部に短期医学留学。そして六年次には3か月間、ハーバード大学医学部とジョンス・ホプキンス大学医学部において病院実習留学に行かせていただきました。実際に患者さんを担当し、診断から治療まで積極的に参加することが求められ、大変な一方で非常にやりがいのある経験が生まれました。そしてこの留学で将来についてのビジョンがより明確になったと思います。

名古屋大学で過ごした6年間はとても楽しく、濃密な時間でした。サポートしてくださった方々と家族への感謝の気持ちでいっぱいです。患者さん第一に考え最適な医療を施せるような医師として社会に貢献できるよう、全力を尽くして研鑽を積みたいと考えています。



『貴重な4年間をありがとう』

工学部4年 石原 一輝

名古屋大学へ入学してから、4年という歳月が流れ、早くも大学院という次のステップが始まろうとしています。この4年間という名古屋大学での学生生活は、私にとって貴重な体験ばかりで、人として大きく成長できたと感じています。

大学生活において、最も痛感したことは、両親のありがたみと感謝でした。私は大学入学と同時に一人暮らしを始めました。そのため、自由な時間が増えましたが、一方で、炊事、洗濯、掃除といった家事全般をたまたま体調を崩しても自分でやらなければなりません。共働きで、仕事終わりで疲れているにも関わらず、家事をこなし、ここまで育ててくれた両親には本当に感謝すると同時に、より一層尊敬の念を抱くようになりました。

また、私は現在、機械・航空工学科の航空宇宙工学コースに席を置いています。そもそも、私がこの学科、コースに進もうと思ったのは、宇宙への憧れ、特に人類の活発な宇宙進出と宇宙利用の拡大・発展への非常に強い関心からでした。このコースで行われる航空宇宙工学に関する講義はハイレベルでしたが、自分の知らない世界の広がりを感じ、勉学にもより励むようになりました。大学生活の中で良き友に巡り合い、共に図書館等で遅くまでテスト勉強やレポート課題をこなししたのはいい思い出の一つです。

大学3年間で航空宇宙工学に関して学んでいく中で、宇宙輸送技術の発展が必要不可欠であると考えた私は、デトネーション波という概念を用いた新しいロケットエンジンの開発に従事しています。この研究にはまだ多くの解決すべき課題があり、今までに学修したことだけではなく、より深い知識が必要でした。どれほど自分の知識は乏しいのかと苦悩した時期もありましたが、日々精進するにつれて、成長する自分を実感することができました。また、国内2回、国際1回の計3回の学会に出させていただき、推進関係やデトネーション波関係の名高い研究者の方々や議論を交わす機会がありました。特に、国際学会においては、自分のヒアリング力の低さを痛感しつつも、数多くの研究成果を目にし、自分が今踏み込んでいる分野の貴重さを知り、より研究にも熱が入り、第一線に立ちたいと思うようになりました。

最後に、両親や先生方、サークル活動をはじめ、私の大学生活は多くの方々に巡り合い、そして、支えられてきました。この場を借りて、感謝の言葉を述べさせていただきます。

ありがとうございました。



(筆者・左端)

卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『絵を見るということ』

文学研究科 M2 加藤 真吾

私は文学部へ入学してからそのまま文学研究科へ進学したため、名古屋大学で計6年間を過ごしました。学部3年生までは、当時所属していた名古屋大学吹奏楽団での思い出が心に残っています。しかし、大学院修了を間近に控えた私の心を占めているのは、まさか大学院に進学してまで勉強するとは思わなかった、美学美術史という学問についてでした。

美学美術史学とは、絵や彫刻といった美術作品の歴史を研究する学問です。私は幼い頃から、絵を描いたり見るのが好きでした。美学美術史学研究室に入ったのも、大学で好きなことを勉強したかったことが理由です。しかし、せっかく研究室に入って授業を受けても、頭のなかは吹奏楽団や他の活動のことで頭がいっぱいで、とても真面目な学生とは言えませんでした。

そんな私が美術史を見つめ直すようになったのは、美術史実習という授業で、美術館やお寺を訪れ、実際に作品を見るようになってからです。たくさんの作品を見ていくなかで、もっと美術作品に対する理解を深めたいと考えるようになり、大学院進学を決意しました。

大学院の授業やゼミの中で、先生方が繰り返し強調されていたのは、実際の作品をじっくり見ることの重要性です。大学院では、ターナーというイギリス人画家の一枚の絵について研究したのですが、その絵はロンドンの美術館にありました。先生方の言葉を思い出した私は、大学院2年生の夏休みにロンドンを訪れ、実物の絵を見てみました。近くから、遠くから、真正面から、斜めから、隣にある絵と比べながら……。ありとあらゆる見方を試していたら、5時間も経っていました。絵を見る視点を少し変えるだけで、本の写真では気づけなかった疑問点や感想がいくつも浮かんできました。同時に、人間は何かを見ているようで見ていないのだと、いささかショックを受けました。

帰国後はいよいよ論文の執筆に取り組みました。執筆に行き詰まったときは、常に絵を見ることに立ち戻りました。最終的には、先生方のご指導、そして先輩方と同期のみなのおかげで、なんとか論文の形にまとめることができました。

私は名古屋大学での研究活動を通して、ある物事を複数の視点から捉えることの大切さ、粘り強く考える姿勢を身につけることができたと感じています。4月からの社会人生活でも、研究の過程で培った考え方・姿勢を活かしていきたいです。



『私の思い出スポットベスト3』

法学研究科 M2 伊藤 成美

研究の事などは恐らく他の方々が書いているのでここでは「敢えて」書きません。もしそうした内容についてご興味のある方は、この文章を読み飛ばして頂いて構いません。それでは、ここからは「思い出スポットベスト3」と題して、私の学生生活の思い出をつらつらと書かせて頂きます。

- ・山の上音楽練習場：私は大学からジャズサークルに所属し、トロンボーンという楽器を担当しておりました。施設不足などの関係で基本的に屋外での練習を強いられておりました、名大の山の上の緑豊かな環境で練習をしました。冬は極寒地獄、夏は灼熱地獄。春と秋は花粉地獄。しかもそれなりに自然豊かな場所のため、巨大蟻や生命力強めな蚊、ムカデ等様々な生き物たちが出現。練習環境としては酷いものですが、素晴らしい仲間達とジャズに打ち込んだ青春の思い出の場所でもあります。
- ・研究室：我が法学研究科の研究室は、一見すると、普通のアパートのような外観を呈しております。しかし、その扉を開けると、大学院生特有の淀んだ空気で充満していて、普通の人間はとても長いいられたものではございません。まさに「混沌」という言葉がふさわしい場所ですが、ここで私は、論文と格闘し、研究仲間と語り合い、ごく稀に夜を徹し……。こうして振り返ると、私にとって研究室は、修士課程の濃密な2年間を過ごした思い出の場所でもあります。
- ・全学教養棟にある某カフェ：全学教養棟に突如出現する異空間なカフェ。ここでコーヒーを購入すると、一風変わったマスターによる、ためになる話や、ためにならない話を聞くことができます(ためになる話とためにならない話の比率は1対9)。リッキー・リー・ジョーンズやビル・エヴァンス等店内に流れるBGMのチョイスも素敵で、大学構内にある世界的に著名な某コーヒー屋より遥かに素晴らしいカフェだと私は思っております。

最早書きたいことを書いて收拾がつかなくなっておりますが、最後に、6年間の学生生活を送り、良かったことと致しましては、心の師がたくさん持てたことだと思います。沢山の素晴らしい方々に恵まれ、私は幸せに思います。そして、この私を大学院まで進学させてくれた両親に感謝。



卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『2年間を振り返って』

国際言語文化研究科 M2 横山 理恵子

私が名古屋大学大学院に進学したのは、これまで日本語教師として活動する中で感じた疑問や自らの課題などを解決するためでした。

学校生活ではどの授業からも刺激を受け、現場を知っているからこそ理解でき、そして解決できたことも沢山ありました。

修士論文の執筆にあたり、膨大な文献を読んだり研究が行き詰まったりと辛い時期もありましたが、その度に講座の先生方を始め、本研究科の先生方や様々な場で多くの方からアドバイスをいただくことができ、とても感謝しております。

授業を通じて名古屋大学法政国際教育協力研究センター（CALE）を知ったのを機に、春休みを利用して単独ベトナムのハノイへ飛び、ベトナムの日本語教育に触れることができたのは貴重な経験でした。研究テーマとは別に、ベトナムで日本語を学習する方が近年急増していることに以前から興味があったので、実際に現地の教育スタイルや皆さんの学習に対する姿勢などを知れたことは、大変勉強になりました。

大学院で得た知識を糧に、大好きな日本語教師の職を今後も続けていきたいです。そして、教師側だけでなく、学習者の皆さんの立場でも物事が考えられるよう努め、さらに幅広い活躍を目指して日々励んでまいりたいと思います。



〈筆者・右端〉



『Second My Home』

環境学研究科 M2 加藤 伸祐

学生生活でもっとも思い出に残っているのはやはり、研究室の仲間と過ごした日々である。この修士の2年間、学部4年時も含めると3年だが、私の研究室には様々な出会いと別れがあった。私の研究室は大講座制で、1つの講座(研究室)にスタッフが5人という体制である。初めて研究室に配属された学部4年生の時には学生わずか7人、同期は自分だけ。知り合いの少ない中に馴染んでいくのは少し勇気がある。この先どうなるのだろう、充実した学生生活は送れるのだろうか、少し不安だったのは今も覚えている。そんな時、研究室のあるM2の先輩がとても優しくしてくれ、ご飯や卓球に誘ってくれた（私の研究室にはなんと卓球台があった!）。そしてだんだんと研究室にも馴染んでいくことができた。私もそんなふうに後輩が居心地よくいられる研究室にしたいと思った。修士に入ってから2年間は私の時とは打って変わって、学生がどんどん増えていった。それにしがたってまたみんなで出かけたり飲みに行ったりする機会も増え、本当に楽しい生活ができたと思う。非常に笑っていただけることが多くて、学校に来るのが楽しみだった。研究室生活でのもう1つの楽しみはやはり、学会や研究会、もちろん旅行も含めて、日本各地の様々な場所へ行けることだろう。この2年間で、北は北海道、南は石垣島まで行くことができた。勉強もしつつ、その土地の風土も感じる。今いる解析系の研究室ではフィールド調査に行くようなこともなくなってしまったが、地球惑星科学科出身としてはやはりフィールドは地球なのだ改めて感じた。私は軽い趣味程度にカメラをやっているが、この2年間はカメラが大いに活躍した。今後の進路として、私はドクター進学する予定である。私に心地よい居場所をくれた研究室。今度は私がそれを後輩たちに提供してゆく番だろうと考えている。もちろん研究もしっかりやっていくわけだが、まずは雰囲気作りを大切にしたい。学校に行きたいと思えるような、困ったときには誰かがいてくれるような、そんな温かい研究室を目指したいと考えている。



〈筆者・左端〉

特集① 平成26年度名古屋大学体育会 会長表彰 表彰式

平成26年度名古屋大学体育会会長表彰表彰式が、1月6日(火)に豊田講堂第1会議室において、名古屋大学体育会により挙行されました。この表彰は、本学体育会に加盟するクラブが各種競技大会で優秀な成績を取った場合に、個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的としたもので、今回で26回目となります。



今年度は、「個人の部」8名、「団体の部」9団体が本学体育会会長である濱口総長から表彰され、1年間のめざましい成果を讃えられました。

受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 平成26年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

表彰対象期間：平成25年11月1日～平成26年10月31日

● 個人の部 (8名)

運動部名	氏名 (学部・学年)	該当賞	出場大会名及び成績
オリエンテーリング部	川島実紗 教育学部・2年	特別賞	2014年度第25回ジュニア世界オリエンテーリング選手権 出場
	細川知希 工学研究科・M1年	特別賞	2014年度第19回世界大学オリエンテーリング選手権 出場
硬式野球部	七原優介 教育学部・4年	一般賞	大学野球日本代表候補選出
陸上競技部	國司寛人 工学部・3年	一般賞	第80回東海学生陸上競技対校選手権大会 男子10,000m 優勝
漕艇部	榊原舞子 農学部・4年	一般賞	第41回全日本大学選手権大会 女子舵手なしペア 優勝 第92回全日本選手権大会 女子舵手なしペア 準優勝
	関根優佳 医学部・3年	一般賞	第41回全日本大学選手権大会 女子舵手なしペア 優勝 第92回全日本選手権大会 女子舵手なしペア 準優勝 第69回国民体育大会 ボート競技 成年女子 シングルスカル 7位入賞
ライフル射撃部	千葉尚彬 情報文化学部・3年	一般賞	第32回中部学生ライフル射撃伏射大会 優勝
アーチェリー部	宮川采弓 理学部・3年	一般賞	2014年度東海学生アーチェリーフィールド選手権大会 女子の部 優勝

● 団体の部 (9団体)

運動部名	該当賞	出場大会名及び成績
オリエンテーリング部	一般賞	2013年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 リレー競技部門 準優勝
舞踏研究会	一般賞	第50回中部日本学生競技ダンス選手権大会 団体成績 優勝
		第50回中部日本学生競技ダンス選手権大会 フォーメーションの部 優勝
ライフル射撃部	一般賞	第43回中部学生ライフル射撃三姿勢大会 10mエアライフル三姿勢3×20発競技 団体 優勝
		第32回中部学生ライフル射撃伏射大会 10mエアライフル60発競技 団体 優勝
アメリカンフットボール部	一般賞	東海学生連盟2013年度秋季リーグ 優勝
フォーミュラチームFEM	一般賞	第12回全日本学生フォーミュラ大会 総合優勝
剣道部	一般賞	第53回全国七大学総合体育大会 剣道競技女子 優勝
男子バレーボール部	一般賞	第53回全国七大学総合体育大会 バレーボール競技男子 優勝
女子バレーボール部	一般賞	第53回全国七大学総合体育大会 バレーボール競技女子 優勝
航空部	一般賞	第17回全日本学生グライダー新人競技大会 準優勝

特集② 第55回リーダーズ・アセンブリー

実行委員長 小野 麻衣子(名古屋大学体育会)



昨年12月13日(土)・14日(日)の2日間にわたり、東海地区国立共同中津川研修センターにおいてリーダーズ・アセンブリー(以下、「L.A.」)を開催しました。

L.A.とは、企画・学務部と体育会の共催で行われる各クラブの幹部または次期幹部を対象とした研修会で、今回で第55回目を迎え、クラブ強化や幹部のあり方について情報交換することで親睦を深めることを主な目的としています。

1日目は、昼前に現地に到着し、午後から開講式の後、「分科会」を行いました。ここでは所属クラブに関係なく振り分けられたチームごとに分かれて、新入生の獲得や部員のモチベーションの上げ方などについて話し合いました。チーム競技、個人競技など形態の違う種目のクラブ同士での話し合いはとても貴重な経験になったと思います。

その後、東海学園大学の鳥典広講師に「チーム作りを考慮したトレーニング計画の立て方」というテーマで講演していただきました。講演終了後も個人的に質問しに行く参加者が多く、とても有意義な時間となったのではないかと思います。

2日目は、午前中に「理事・副総長および企画・学務部との話し合い」を行いました。ここでは名古屋大学の名阪戦、七大戦等での順位向上について國枝理事・副総長からお話をいただき、それに加えてクラブとして目指している目標とそれに向けて足りないものについて各クラブから意見発表を行いました。

その後は、1日目の分科会で話し合った内容をまとめ、グループごとの発表を行いました。各グループ発表内容や発表形式もさまざまで、ひとりでは考え付かないような意見も多くありました。

今回のL.A.で得た情報を各クラブに持ち帰り、クラブ強化、そして目標の達成に向けて少しでも役立てていただけたら幸いです。

最後になりましたが、今回のL.A.を開催するにあたってご尽力いただいた関係者のみなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。



クラブ活動

オリエンテーリング部

オリエンテーリングとは北欧発祥のスポーツで、コンパスと地図を持って山や公園、時には市街地で地図に載っているチェックポイントを順番通りに周り、その速さを競うというものです。走力と素早く正確に地図の情報を読み取る能力が必要となるタフなスポーツです。

活動は基本的に週一回のミーティングと土曜日に大学付近の山で行う練習です。しかし、より速くになりたい人は週末には遠征に行き日本各地で行われる大会や練習会に参加しています。オリエンテーリングは高校から行っている人は稀で、基本的には大学から始める人ばかりなので、努力次第で上位を狙いやすいスポーツでもあります。

一方、週一から始められるスポーツでもあるので気軽に参加している部員も多いです。ぜひ練習に見学しに来てください。



芸音学部

私達、芸音学部は様々なジャンルのバンドサークルです。月に一度演奏会を行ったり、部会でくだらない話をしたり、時にはなぜかフットサルをしたりして、楽しく活動をしています。

芸音学部には色々な音楽の趣向を持った部員が多く、様々な音楽のジャンルで溢れています。経験者から初心者まで数多くの部員がおり、日々切磋琢磨し練習に励んでいます。

いつも学生会館でライブをしていますので是非足をお運びください。



トピックス

第51回須賀杯争奪駅伝競走大会

実行委員長 堀之上 滉弥 (名古屋大学体育会)



昨年11月15日(土)に、名古屋大学体育会と豊田工業高等専門学校学生会の共催で、第51回須賀杯争奪駅伝競走大会を開催しました。

この駅伝大会は、元名古屋大学学生部長の故須賀太郎先生が豊田工業高等専門学校の初代校長に就任された際、両校のスポーツ振興を図ることを目的として昭和39年(1964年)に第1回大会が開催されました。その後、半世紀もの間行われ続けてきた伝統ある行事であり、我々体育会が力を注いでいるイベントの一つでもあります。

今大会には、須賀太郎先生のご息もお見えになり、第50回を記念したプレートの除幕式も駅伝大会と同時進行で開催され、改めてこの大会の素晴らしさを感じました。大会当日は、快晴でしたが風が少し冷たく、ほどよい駅伝日和の中で大会を開催することができました。

近年は庄内緑地公園で開催されてきましたが、今回は平和公園での開催となりました。コースは、高低差の激しい山道や鋭角ターンといった難所があり、近年に比べてより駅伝らしいコースでの実施となりました。参加チーム数は25チームと少なめでしたが、そのほとんどが体育会系クラブからの参加だったため、非常にハイレベルな大会になりました。また、チームによってパフォーマンスも様々で、驚異的な走りで見守る来場者の目を惹くチームもあれば、仮装をして楽しませるチーム、たった2人で全6区を走りきり拍手をもらうチームなどもありました。こういった様々なチームの姿や、参加者同士がチームの垣根を越えて応援しあう姿が見られることこそが、須賀杯駅伝の魅力だと思います。

大会を無事に終えることができましたが、準備は非常に大変でした。数々のアクシデントに何度も掛けそうになりましたが、落ち込む時間もなく、ひたすら前を向き続けなければなりません。ですが、そんな苦勞も選手の頑張りや笑顔で全て吹き飛ばしてしまいました。この頑張りや笑顔、今大会実行委員長として誇りに思います。また、私事ですが、実行委員長を務めたことで、大きく成長できたような気がします。

最後に、今大会の開催にあたり、多くの方々に協力していただきました。企画・運営に携わった方々のみならず、素晴らしい走りをしてくれた選手達、またその姿を応援する来場者の方々も大会を大いに盛り上げてくださいました。今大会にご協力いただいた皆様へ心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

最後に、今大会の開催にあたり、多くの方々に協力していただきました。企画・運営に携わった方々のみならず、素晴らしい走りをしてくれた選手達、またその姿を応援する来場者の方々も大会を大いに盛り上げてくださいました。今大会にご協力いただいた皆様へ心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

総合成績 (上位6チーム)

順位	チーム名	団体名	所属	最終タイム
1	"天さん"のゲログロ合唱コン	陸上競技部	高専	1時間08分59秒
2	ゲゲゲのさんぽん	陸上競技部	高専	1時間10分50秒
3	super-sub	super-sub	名大	1時間16分11秒
4	ともちゃんず	陸上競技部	高専	1時間16分53秒
5	Nusuo	ソフトテニス部	名大	1時間18分03秒
6	ワングル	ワングーフォーゲル部	名大	1時間18分27秒

区間賞

区間	名前	チーム名	団体名	所属	区間タイム
1区	小倉 尚武	"天さん"のゲログロ合唱コン	陸上競技部	高専	10分58秒
2区	山本 剛平	ゲゲゲのさんぽん	陸上競技部	高専	11分03秒
3区	吉村 泰希	"天さん"のゲログロ合唱コン	陸上競技部	高専	11分31秒
4区	桶 元樹	"天さん"のゲログロ合唱コン	陸上競技部	高専	12分09秒
5区	幅 匡史	"天さん"のゲログロ合唱コン	陸上競技部	高専	11分59秒
6区	伊藤 兼梧	"天さん"のゲログロ合唱コン	陸上競技部	高専	10分50秒



企画・学務部の窓

就職活動について

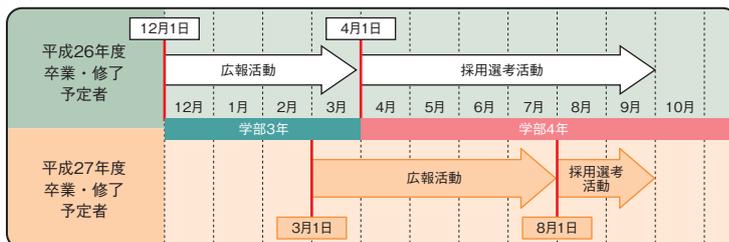
企画・学務部学生支援課就職支援室

新学期の開始に向けて、就職活動を意識し始めた学生も多いでしょう。就職支援室では、就職活動の各段階に応じたガイダンス等を実施しています。

ガイダンス等は、就職支援室ホームページ、就職支援室公式Twitter (@NagoyaUniv_CDO)、就職支援メールマガジン、名古屋大学ポータル、及び各学部・研究科の掲示板で案内しますので、参加してみてください。また、専任相談員による就職相談も行っていますので、是非ご利用ください。

なお、平成27年度卒業・修了予定者からの就職・採用活動スケジュールが変更になりました。広報活動は、卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降に開始、その後の採用選考活動は、卒業・修了年度の8月1日以降に開始となります。該当する学生は、注意してください。

就職・採用活動時期の変更について

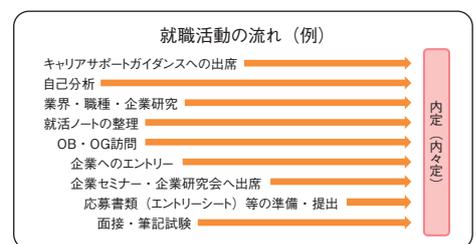


就職支援室

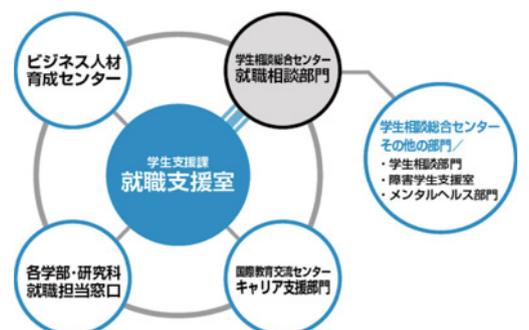
場 所 | 工学部7号館B棟
TEL | 052-789-2176
MAIL | s-shien.evententry@adm.nagoya-u.ac.jp



名古屋大学ポータルサイト (スマートフォン・PC用)



本学の就職支援体制



企画・学務部の窓

名古屋大学課外活動施設の利用案内

企画・学務部学務課

本学には、一般学生及び教職員が利用できる施設として以下のような施設があります。施設の概要、利用方法詳細については、学生便覧に詳しく記載してありますが、不明な点があれば、学務課課外活動掛（内線2164・2165）まで問い合わせください。

<運動施設>

運動施設には、総合運動場（陸上競技場、野球場、硬式テニスコート、フットサルコート等）、体育館、屋内プール等があり、総合保健体育科学センターの使用（授業、行事等）及び体育会所属運動部の使用時間を除いて利用できます。

利用希望者は下記により申し込んでください。

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 陸上競技場 ▶ 野球場 ▶ 硬式テニスコート ▶ フットサルコート ▶ 第1・第2・山の上体育館
申し込み開始日	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用月の前月 (第3月曜日17時以降)
使用願用紙の交付・提出場所	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 運動施設予約システム (名大ポータル→キャンパス→キャンパスライフ)

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 第3グリーンベルト
申し込み開始日	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用日の1か月前以降
使用願用紙の交付・提出場所	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 体育会事務室（学生会館2階）

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 屋内プール
使用可能日	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 一般学生のためのプール開放は夏季休業中の午後（日曜を除く）と授業期間中の決められた曜日（週2日程度）の授業終了後に行われます。これ以外の時間帯での一般学生のプールの利用はできません。プール開放の詳細については、総合保健体育科学センターホームページ (http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/) をご覧ください。
手続場所	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 屋内プール



<学生会館>

学生会館には、談話室、集会室（9室）、和室（2室）があります。集会室又は和室を利用する場合は、学生会館事務室で使用許可願の用紙を受け取り、必要事項を記入し、許可を受けてください。



<中津川研修センター>

本センターは、自然豊かな岐阜県中津川市にあり、共同生活を通じて学生、教職員及び大学間の交流を図るとともに、課外教育等により大学教育の効果を高め、学生の人間形成に資することを目的に設置されています。

本センターには研修室や体育館が設置されており、また、センター周辺には中津川市等が管理するスポーツ施設や、妻籠宿、馬籠宿等の観光地が多数あります。

学生あるいは教職員の5名以上の団体に、4泊5日以内であれば本センターを利用できますので、研究室でのゼミ合宿、クラブサークルの合宿はもちろんのこと、リフレッシュや親睦を目的とした活動など、幅広い用途に積極的に活用してください。

なお、申請方法や利用料金等については、本センターのホームページを参照いただくとともに、不明な点は学務課課外活動掛まで気軽にご相談ください。

ホームページURL
<http://www2.jimu.nagoya-u.ac.jp/nakatsugawa/>

企画・学務部の窓

平成27年度学年暦について

企画・学務部学務課

平成27年度の名古屋大学の学年暦は以下のとおりです。
時間割表の変更、休講、定期試験の実施方法、学生への連絡事項等の案内、連絡は掲示板により必要の都度行われますので、十分注意してください。

■第1学期（前期）

月	火	水	木	金	土	日	
4	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30				
5	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	
6	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30						
7	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			
8	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							
9	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30					

■第2学期（後期）

月	火	水	木	金	土	日	
10	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		
11	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30							
12	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				
1	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	
2	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29							
3	1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

授業実施可能回数	月	火	水	木	金
	14+1	15	14+1	14+1	15

+については講義予備日等の利用で15回実施可能となっている。

授業実施可能回数	月	火	水	木	金
	13+2	15	15	15	14+1

+については講義予備日等の利用で15回実施可能となっている。

学生教育研究災害傷害保険制度

企画・学務部学生支援課

みなさんが、講義、実験、実習、演習または実技などの正課中、各種学校行事中、学校施設内にいる間、課外活動中及び通学中などに不慮の災害事故により身体に傷害を被ることは、万全の注意を払っていても発生することがあります。

このような不測の事態の被害の救済のため「学生教育研究災害傷害保険制度」があります。保険料は極めて低額になっておりますので、未加入者は必ず加入するようにしてください。

本学では、平成24年度に59件の事故に対して、約315万円の

保険金が支払われています。

新たにこの保険に加入しようとする学部生（留年・休学により保険の期限切れとなっている学生）、大学院生、研究生などは、原則として4月または9・10月の各募集期間中に所属学部等の教務学生担当掛で所定の手続きをしてください。

なお、すでに加入している学生で、この保険の対象となる事故が生じた場合、ただちに事故の日時、場所、状況、傷害の程度を上記の担当掛まで連絡してください。

＜医療保険金について＞ 医師の治療を受けたとき、治療日数により下記保険金が支払われます。

入院加算金については、1日から対象となります。	平常の生活ができるようになるまでの治療日数	支払保険金	入院加算金 (180日を限度)
正課中・学校行事中 (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が1日から対象となります。)	治療日数 1日～ 3日	3,000円	入院1日につき 4,000円 (注)入院加算金は、医療保険金の支払の有無に関係なく入院1日目から支払われます。
通学特約加入者の通学中・学校施設等相互間の移動中 (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が4日以上の場合が対象となります。)	◇ 4日～ 6日	6,000円	
	◇ 7日～ 13日	15,000円	
上記以外の学校施設内にいる間・学校施設外での課外活動(クラブ活動)中 (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が14日以上の場合が対象となります。)	◇ 14日～ 29日	30,000円	
	◇ 30日～ 59日	50,000円	
	◇ 60日～ 89日	80,000円	
	◇ 90日～ 119日	110,000円	
	◇ 120日～ 149日	140,000円	
	◇ 150日～ 179日	170,000円	
	◇ 180日～ 269日	200,000円	
◇ 270日～	300,000円		

(注) 上記の保険金は、生命保険、健康保険、他の傷害保険、加害者からの賠償金と関係なく支払われます。

学研災付帯賠償責任保険制度

企画・学務部学生支援課

① 保険の内容

日本国内外において、正課、学校行事等及びその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上支払わなければならない損害賠償を支払限度額の範囲内で補償します。

② 加入の対象者

学生教育研究災害傷害保険に加入している学生に限ります。

③ 対象となる活動範囲

Aコース 学生教育研究賠償責任保険（略「学研賠」）

正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Bコースの対象範囲を含む）

Bコース インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（略称「インターン賠」）

インターンシップ、介護体験活動、教育実習、保育実習、ボランティア活動及びその往復。但し、学校が、正課、学校行事、課外活動として認めた場合に限る。

Cコース 医学生教育研究賠償責任保険（略称「医学賠」）

医療関連学部・学科の正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Aコース、Bコースの対象範囲を含む）

Lコース 大学院生教育研究賠償責任保険（略称「法科賠」）

対人・対物賠償：法科大学院等の正課、学校行事、課外活動及びその往復。
 人格権侵害補償：臨床法学実習による不当行為に起因する事故。

④ 補償金額（支払限度額）・保険料

活動内容	Aコース	Bコース	Cコース	Lコース
補償内容	学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）	インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（略称「インターン賠」）	医学生教育研究賠償責任保障（略称「医学賠」）	法科大学院生教育研究賠償責任保険（略称「法科賠」）
対人賠償 対物賠償	対人賠償と対物賠償合わせて1事故につき1億円程度（※免責金額0円）			
人格権侵害賠償				損害賠償請求者1名あたり1,000万円限度（※免責金額0円）
保険料分担金（1年間）	340円	210円	500円	1,640円

※免責金額とは、自己負担額をいいます。

<対象となる事故例>



① 正課で化学の実験中、間違えて薬品を混ぜ、爆発事故を起こしてしまい、クラスメイトに火傷を負わせてしまった。（A・Cコース対象）



② 学園祭で、焼鳥屋の模擬店を出店したが食中毒事故を出してしまい、5人が入院してしまった。（A・Cコース対象）



③ 正課でのインターンシップ活動中、派遣先の機械を使用し、誤って壊してしまった。（A・B・Cコース対象）



④ 授業を受けるために自宅から大学へ行く途中、駅の階段駆け降りたとき、誤って前にいた老人にぶつかってしまった、大けがをさせてしまった。（A・Cコース対象）

学研災付帯学生生活総合保険

企画・学務部学生支援課

学研災付帯学生生活総合保険は、学生教育研究災害傷害保険加入者を対象に、病気・ケガの入院・通院が1日目から補償される等の特色のある学生生活全般に補償を広げた保険です。加入は任意加入となっています。

補償内容・加入方法については、「学研災付帯学生生活総合保険パンフレット」を参照してください。

災害対策

名古屋大学の地震防災体制

今年で阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から4年になります。一方、東海地震でも大地震の発生が以前から予測されてきました。名古屋大学ではこれまでの地震災害を調査し、将来の大規模地震災害を想定して、安全対策と防災体制構築を行っています。

◆ 建物・室内の安全性向上

この10数年間で学内建物の耐震改修や新築が進み、耐震性に問題のある建物はほとんどなくなりました。また、室内の大きな家具などは、ガイドラインに従ってすべて固定するようにしています。現在は、実験室などの危険な機器や薬品がある場所の安全対策に取り組んでいます。建物や室内の対策ができていれば、地震が発生した場合でも落ち着いて行動でき、火災やけがなどの様々な危険を減らすことにつながります。

◆ 災害発生時の対応

あわてずに、まず身を守り、それから落ち着いて屋外の一次避難場所に避難します。特に、緊急地震速報が放送された場合は、机の下で頭を守るなど、強い揺れに対して身を守る行動を行います。災害発生時に避難誘導や消火・救助などを行うため、教職員による自衛消防隊がつけられています。名古屋大学は敷地が広く、建物や人が多く、組織も複雑なため、学内を10ブロックに分けて「ブロック自衛消防隊」を編成し、その中で各建物の消防隊が活動するようになっています。災害時には自衛消防隊員やその他の教職員、あるいは非常放送の指示に従って行動するようにしてください。

◆ 安否確認

災害時には、大学として全員の状況を常に把握し、適切な方針を決める必要があります。キャンパス内では、名簿や避難者確認カードで確認が行われます。一方、夜間や学外でも各自の状況を大学に知らせることができるよう、全員を対象とした安否確認システムも準備されています。非常時に携帯電話等に大学から電子メールが届き、その指示に従って安否状況を入力します。このための非常連絡用メールアドレスは、情報セキュリティ自己点検のときに必ず登録してください。

◆ 帰宅困難と備蓄品

学内で無事に避難した後は、大学から提供される情報などに基づいて行動してください。帰宅する場合は、自宅や経路の被災状況や安全を確認し、安全に帰宅できないと判断される場合は、学内の安全な建物に当面の間とどまることもできます。ただし、食料や水は学内に十分な量の備蓄がなく、避難者全員に提供することは保管場所や費用の面からも難しい状況です。したがって、非常時の食料や必需品は、各自で、また研究室や学科で、できる限り準備することをお願いします。カバンの中に携帯食品を入れておくだけでも急な災害時に大いに役立ちます。

◆ 防災訓練

上記のような災害対応は、実際の地震が起こる前にやってみて確認し、慣れておくことが大切です。そのために、毎年5～6月頃と10月28日に全学で防災訓練を実施しています。春の訓練は主に、新学期の体制確認と安否確認システムの利用を行います。秋の訓練は全学一斉避難、自衛消防隊の活動、安否確認など全体の対応を確認します。必ず参加するようにしてください。

このほかに、学園だよりのバックナンバーや、災害対策室ホームページも参考にしてください。http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/



伝言板

学生証は大切に

企画・学務部学務課

最近、学生証紛失による再交付の申請が増えています。学生証は本学の学生であることを証明するものであるだけでなく、在学証明書等の発行や中央図書館への入館等にも必要です。また、学生証に印字されている学生番号はwebによる学内向け情報へアクセスする際に必要となります。

万一紛失したり盗難に遭ったりした場合は、必ず警察へ届け出てから、所属学部教務学生掛等にて再交付の手続きを行ってください。紛失した学生証で、消費者金融の無人契約機・レンタルビデオ店等で悪用され、思いがけない迷惑や被害を受けることもありますので、十分注意してください。

自転車の盗難防止・走行上の注意について

企画・学務部学務課

学内において、自転車盗難の犯罪が増加しています。駐輪する際は短時間であっても必ず施錠をし、鍵も二重ロック（ツーロック）にしてください。自転車窃盗犯の約70%がツーロックされている自転車は盗まないと述べています。

なお、当然のことですが、他人の自転車を無断で使用する行為は犯罪行為です。自転車の窃盗は刑法第235条の「窃盗罪」であり、10年以下の懲役・50万円以下の罰金が科せられます。警察に検挙された場合、必ず書類送検され、さらに本学からは学則に基づき懲戒処分が課せられることがあります。絶対に行わないでください。

また、自転車走行上の注意として、東山キャンパス周辺は坂の多い地形ですので、特に下り坂でのスピードの出し過ぎや一時停止の無視等により、歩行者や他の車両との事故を起こさないよう、十分に注意してください。たとえ自転車でも、歩行者に接触すると命にも関わる大事故につながりかねません。周囲に配慮した、優しい走行を心がけてください。

ゴミ出しマナーはルールを守って

企画・学務部学務課

名古屋市では、各家庭から排出されるゴミは、種類毎に分別し、種類毎に指定された曜日・場所に出すことになっています。

名古屋市内で単身で下宿生活を送っている学生は、地域の一員としてこのゴミ出しルールに従い、ルールとマナーを守ってゴミを出すようにしてください。分別していないゴミは、処理できず放置される原因にもなります。

ゴミの出し方（種類の分け方）が判らないときは、各区の環境事業所、または町内会の保健委員の方に尋ねるようにしてください。

なお、学内に家庭ごみや粗大ごみを持ち込んで投棄することは、不法投棄ですので絶対行わないようにしてください。本学では、不法投棄を発見した場合、警察への通報などの対応を取っています。